

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006-2009

課題番号：18330068

研究課題名（和文） 日本における世代間移転と親子関係の経済分析

研究課題名（英文） An Economic Analysis of Intergenerational Transfers and Parent-Child Relations in Japan

研究代表者

C. Y. Horioka (C. Y. HORIOKA)

大阪大学・社会経済研究所・教授

研究者番号：90173632

研究分野：社会科学

科研費の分科・経済学

細目：財政学・金融論

キーワード：遺産 / 親子関係 / 消費 / 貯蓄 / 老後 / 家計 / 世代間移転

1. 研究計画の概要

利己主義を前提としたライフサイクルモデル、利他主義モデル、王朝モデル、社会的規範モデルなど、家計行動を説明しようとする理論モデルは数多く存在するが、実際にはこれらのうち、どのモデルが成り立っているのだろうか。本研究の目的は、様々なアンケート調査からの個票データを用いて日本における世代間移転（遺産、生前贈与）および親子関係について吟味し、そうすることによって、どの家計行動に関する理論モデルが日本において成り立っているかを明らかにすることである。具体的には、遺産やそれ以外の世代間移転がどのくらいあり、子供がどの程度高齢の親と同居し、どの程度高齢の親の世話、介護、経済的援助をするかを明らかにし、これらの行動の決定要因について検証し、親の遺産やそれ以外の世代間移転（または親の資産）と子供が高齢の親と同居し、高齢の親の世話、介護、経済的援助などをする度合いの間にどの程度の相関があるかについて吟味することによって、日本においてどの家計行動に関する理論モデルが成り立っているかを明らかにする予定である。

2. 研究の進捗状況

本研究の進捗状況は極めて順調であり、今までの研究では、日本における様々なマイクロデータと綿密な計量経済学的手法を用いて世代間移転および親子同居の決定要因に関

する実証分析を行い、日本においてどの家計行動の理論モデルが成り立っているかについて検証した。その結果、日本においては、利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデル、利他主義モデル、王朝モデル、社会的規範がいずれも多かれ、少なかれ成り立っているが、どちらかといえば、利他主義を前提としたライフ・サイクル・モデルが最も適用度が高いといったことが分かった。これらの研究成果は下記のような雑誌論文、学会、図書などで公表している。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

（理由）

自己採点では、研究結果の斬新さから判断しても、雑誌論文、学会発表、図書などの形の研究成果の数から判断しても、本研究は当初の計画以上に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

今後の推進方策については、研究分担者の大阪府立大学の若林緑准教授が長女を出産し、産休を取ったため、戦略的遺産動機に関する研究は若干遅れているが、今年度から立命館大学の暮石渉ポストドク研究員に研究分担者になってもらい、問題なく遅れを取り戻す見込みである。また、それ以外の研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題

点はなく、研究を当初の予定通り推進し、公表する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Charles Yuji Horioka, “Do Bequests Increase or Decrease Wealth Inequalities?” *Economics Letters*, vol. 103, 2009, pp. 23-25, 査読有

チャールズ・ユウジ・ホリオカ、「遺産と格差」、『季刊社会保障研究』、第 44 巻、307-315 ページ、2008 年、査読有

〔学会発表〕(計 2 件)

Charles Yuji Horioka, “Bequest Motives and Parent-Child Relations in the U.S., Japan, and China,” International Conference on Econometrics and the World Economy, March 23-24, 2009, The Center for Advanced Economic Study (CAES), Fukuoka University, Fukuoka, Japan.

Charles Yuji Horioka, “The Saving Behavior of the Aged in Japan,” International Workshop on the Prospects of Aging Economy, March 4, 2009, National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan.

〔図書〕(計 1 件)

チャールズ・ユウジ・ホリオカ、財団法人家計経済研究所、ミネルヴァ書房、『世帯内分配・世代間移転の経済分析』、2008 年、187 ページ

〔その他〕

ホームページ

<http://www.iser.osaka-u.ac.jp/~horioka/index.html>